



Yokohama Foundation for
Advancement of Medical Science

一般財団法人 横浜総合医学振興財団



横浜・神奈川における

医学の研究・教育を支援します

賛助会員とご寄附のお申し込みを随時受け付けております

賛助会員
(会費 1万円/年)

ご寄附

財団に
お電話下さい

☎045-788-8635

**すべて
研究助成に**

一般財団法人 横浜総合医学振興財団

Yokohama Foundation for Advancement of Medical Science

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3丁目9番地 横浜市立大学医学部 基礎研究棟B-122

Tel.045-788-8635 Fax.045-788-8640

Mail : yokohama-zaidan@yfams.or.jp Web : <https://www.yfams.or.jp>



財団設立からの経緯



財団シンボルマーク

若木を「若き医学研究者」と見立て、それを育てる財団をイメージしたものです。イチヨウは、横浜市立大学瀬戸キャンパスの並木に由来します。

■ 沿革

- | | |
|-----------------|---|
| 1991年07月(平成3年) | 横浜市立大学医学部附属病院が金沢区福浦に開院 |
| 1991年12月(平成3年) | 50周年記念事業として財団法人を設立する発起人会を開催 |
| 1992年04月(平成4年) | 神奈川県知事より財団設立の許可 |
| 1993年12月(平成5年) | 第1回研究助成金を交付、以降毎年度交付 |
| 1994年10月(平成6年) | 収益事業を開始 横浜十全会から南区及び金沢区の横浜市立大学附属病院内売店の経営を引き継ぎ、同会に経営を委託 |
| 1997年04月(平成9年) | 横浜市立大学附属病院内の売店を直営化 |
| 2000年01月(平成12年) | 横浜市立大学医学部附属市民総合医療センターが南区浦舟町に開院
同病院内の1階売店を財団が経営 |
| 2000年03月(平成12年) | 横浜十全会からの寄附金で医療技術研究助成の横浜十全会基金を設置 |
| 2003年03月(平成15年) | 梅原清氏からの寄附金で梅原基金を設置 |
| 2011年09月(平成23年) | 一般財団法人横浜総合医学振興財団に移行(神奈川県) |
| 2016年02月(平成28年) | 財団初代理事長の三杉和章氏御遺族からの寄附金で三杉記念医学教育研究基金を設立 |

医学・医療の向上への貢献をめざします

当財団は、平成4年4月に横浜市立大学医学部創立50周年記念事業の一貫として、医学部医学科同窓会「俱進会」により設立され、平成23年9月に一般財団法人として移行認可されました。

設立目的は、医学の研究や教育への助成事業により、横浜をはじめとした神奈川の医療水準の向上を図ることです。

このため、将来の医学・医療を担う優秀な人材を育成し、その国際的研究の成果を地域に還元することが重要と考えております。

具体的な事業として、若手医学研究者の育成支援、「がん」や感染症の研究助成、医学教育や臨床研修の質向

上支援および医学・医療の啓発活動を行っております。これらの事業の財源は、財団賛助会員の会費とご寄附、その他、財団が経営する病院売店の収益です。

当財団は、今後とも設立の目的を果たすため、医学の研究と教育の推進に貢献できるよう尽力いたします。

皆様のお力添えを頂ければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。



一般財団法人 横浜総合医学振興財団
理事長 後藤 英司

事業概要

公益事業として、横浜・神奈川における医学・医療分野の研究および教育活動を対象に助成しています

① 医学・医療の学術研究への助成

1. わかば研究助成

若手研究者（40歳以下）を対象に、自らの発想で行う研究を支援しています。令和5年度に「わかば優秀論文賞」を新設。本助成採択者による優れた研究成果を称えて表彰します。



2. 新型コロナウイルス感染症助成

わが国で、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行し始めたのは令和2年1月です。当財団では2年度に COVID-19 に関する基礎的研究、3年度は同感染症の診療活動を支援、4年度は診断や治療に資する基礎および臨床研究を対象に助成しました。この成果が、研究や診療に活かされています。

3. がん研究助成

がん医療の発展に資する基礎・臨床研究、患者や家族の社会生活における諸問題に関する研究を支援します。

4. 医療技術研究助成

「横浜十全会基金」による助成で、医師を除く医療従事者が行う実践的研究や業務改善の企画に助成しています。



② 医学教育を支援

1. 学生・研修医の自主的活動助成

（国内 / 海外）

横浜市立大学の医学部生、大学院生および附属2病院の臨床研修医が国内外で行う自主的かつ優れた学術活動や研修会参加等をサポートします。

2. 学術講演会開催助成

当財団の初代理事長、三杉和章先生のご遺族と附属病院臨床助手会からのご寄附をもとに設立された「三杉記念医学教育研究基金」を財源としています。横浜市立大学関係者が開催する学術講演会やワークショップの開催を助成しています。

3. 先導的教育事業助成

医学部教育および臨床研修を担当している教員を対象として、教育・研修の質の向上に繋がる取組を支援します。

③ 医学・医療の啓発

助成を受けた研究の成果を財団ホームページに掲載するなど医学・医療における啓発事業を行っています。また、横浜市立大学附属市民総合医療センターの前身となる十全医院で英米医療を実践し、横浜の医療向上に大きく貢献したドクトル・シモンズの墓地（青山霊園）を管理しています。

収益事業として、横浜市立大学附属病院（金沢区福浦）および附属市民総合医療センター（南区浦舟売町）の各1階で売店を運営しています。売上純益は研究助成事業の財源となっています。

